

※平成元年11/5に開催された事業説明会の質疑の会議録

以上が、我々の方からの報告と説明という事になりますので、何か不明な点、ご質問等あればお名前と挙手にお名前を言っていただいでご質疑いただければと思います宜しくお願いします。

【A】

すいません

【信濃電力開発】

はい。

【A】

今説明していただ、あ、〇〇の〇〇と申しますが。

【信濃電力開発】

A様ですね、はい。

【A】

私どもは、温泉通してから郷で別荘を分譲してやってきましたけど、今日、今話されました、ご説明いただきましたけど、出席者の方はどなたになる私も初めてなものですから。

【信濃電力開発】

ああ、失礼しました。えーと右隣りが当社の〇〇と申します。

【信濃電力開発】

営業部の〇〇と申します。

【信濃電力開発】

営業部の〇〇です。とこちらまあ皆さんご存知の、こちらの社長の〇〇社長でございます。

【A】

えーと私もちょっとあの、温泉というかその関係で売るとした中で、お客さんがいるもんですから、この施設を作ってやることは大概良いと思うんですけども、あの、供給さんからちょっとお話を聞いたら、あの水量、水量を取ることによって温泉の量が減るんじゃないかという心配があると、そうなるなら私もお客さんが1800戸くらい今供給してるところがあるんですけども、そのお客さんに対して何か問題が出来た場合に、そのなんか補償とかそういう関係はどうなるんですかね。

【信濃電力開発】

まずあのこの説明書にもあります通り、伏流水というのは下なので、あくまで越流したものしか取らないので、我々も今まで20年使っている30カ所使っていて、同じような状況はあるんですが、温泉が減ったという事実はありません。

【A】

じゃあないっていう事で、もし本当にその今後ですね、何かあった場合についてはどうなるかっていう事をちょっと、補償じゃないですけど、分かんない事だと思うんですけども。

【信濃電力開発】

補償、え、ですからそれはないっていう形しかお話しできないので、ご質問である、逆に減るっていうなんかそういった論拠とかそういったものをお出しいただければ検討させていただくという事になるかと思います。正式に文章として、あの科学的な根拠に基づいてのご質問という形でしていただければありがたいかと思います。

【A】

まあ減る減らないって一論拠をこっちに求められても、そりゃもう無理だと思うんですけども。

【信濃電力開発】

それは過程論拠になっちゃうんで。

【A】

それを出せっていう事自体が、もう無理な条件だっていう。

【信濃電力開発】

どうでしょう、我々としてはただ減水したところはないので、減水はないです。

【A】

減らないっていう事を、減るっていう事を出せて言われてもこっちも出せないんですけど。もしも本当に、今の施設のところで、供給さん取ってるのかなんか、その水路のところで取っている事を聞いたもんですから、その伏流水じゃない量が減ると温泉の量が減るといふような根拠はあるようなことを聞いたもんですから。

【信濃電力開発】

是非ですから逆にそういったものをお出しいただいて、そうすると我々も精査しやすくなります。

【A】

聞いたのは温泉供給さんの方から。

【B】

Bと言いますけれども、あちこちで温泉の研修会とか行っている中で、例えば群馬県の法師温泉、それから東京の鶴の湯さん、それから山形の赤倉さん、やはり河川水位の上下によって温泉の湯出量に影響が出るという、ような事を勉強してまして、実際にあのまま記事にもなっているところもあるもんですから、是非その点についてはリスクがないというような根拠を、資料で提出をお願いしてまあ当社としても 1600 軒以上のお客さんいますし、当然営業施設さん、あの影響もし何かあった場合に影響する不動産業者さんそういったものがありますので、そちらへそのまま問題ないんだというような説明のための資料として使いたいと思いますので、是非お願いしたいと思います。

【信濃電力開発】

すみません、我々も正式なご回答を申し上げるのに、正式な文章をお出しいただくと。

【B】

なるほど、こういった回答が欲しいという事ですね、はい。分かりました。

【信濃電力開発】

それによって検討させていただくという

【B】

それとまああの説明はあのお聞かせいただいたんですが、この場所にその小水力発電所を作るという第一の目的っていうんですかね、それはどういった事でしょう。この資料の中で言うと。

【信濃電力開発】

はい、ここでも書いてある通りですけども、基本的には CO2 を出さないエネルギー源をたくさん全国に作っていきたいというものと、それから合わせて企業ですので、そういった発電事業によって少しでも自信を持っていく。皆さんも同じだと思いますけどもそういった目的、二つの大きな意味がある。特に三つ目、これについては三つ目になると思いますけども、国立公園なのでそれに対しての維持管理に対して少しでも十分補填が出来れば凄く嬉しいなど、いう風に思っております。他のところでもまあ別に自然公園じゃないところ我々が直接経営させていただいているところでも地元を還元という事で、地元の水を使って地元に戻すという考え方に基づいて一部の収益を寄贈させていただいて、まあ実際にやっております。でやはり今日本は山里がみんな活性化できていないところがいっぱいあるので、昔ながらの小水力発電というのは全国各地で本当は昔はあったんですけども今は省略されてなくなってしまっただけで圧力がなくなっちゃってると、そういったものに対して環境保育もそうですけども、人が来ることによって地元にも利があるというようなものに興味があれば今我々も本当のこう、まあ気持ちですね、事業としてはそういう形です。やはりこの三つの柱という事でやらしていただきたいという形でございます。

【B】

それとちょっと前の質問に戻るような格好になってしまいますけれども、まあ三十数か所やられていて例えば河川の中に源泉があるような場所の上流から今回のような取水をしての発電っていうものはあるんですか。

【信濃電力開発】

それはもうありますね。

【B】

それも当然影響は出て。

【信濃電力開発】

ないです。

【B】

出てない。それほどこの温泉地か、分かります。

【信濃電力開発】

いや、温泉地っていうか、温泉のあれじゃなくて、それから私どもが関わって私だけ私どもだけではなくて、いろいろな事例が全国にありますので、そういったものに基づいてありますので…あ、こっちか

【信濃電力開発】

南アルプス市、南アルプス市はこちら側です

【信濃電力開発】

こちらが我々の納入実績で、まあ温泉と言うよりも例えばマスセンターがあるとかですね、そんないろんな自ぎのものがあるんですけど、そういったところで減水になったとか下流域で減水になったと減水になったとかそういうのは全く起こった事はない。

【B】

実例としてはどこら辺があれですか、その取水位置より下に源泉があるような、ところが。

【信濃電力開発】

雑水あったよね。

【信濃電力開発】

はい？

【信濃電力開発】

雑水あったよね…。

【信濃電力開発】

そうですね。

【信濃電力開発】

…この雑水山第二発電所なんて新潟の津南の方なんですけど、こちらはまあ農業用水なんですけど、下の方には温泉もありますし、下流域ですね。

落合あったよね。下の方に、ずーっと下の方に。

この落合平石、ずーっと下流域にありますので。

【B】

これいただいてもよろしいですか。

【信濃電力開発】

はいどうぞ。

あとつくばねの方ですね。下流域、全然だいたい下流域ですけども。奈良の方ですね。

【A】

ちょっといいですか。

【信濃電力開発】

はい。

【A】

これあの先程の、4千4百万ですか、4千、4千…万あるんですけども、事業計画についての費用はどれくらい掛かるんですか。

【信濃電力開発】

5億円ぐらいですね。

【A】

5億。これ20年。

【信濃電力開発】

20年ですから4千万20年ですから、まあ8億ぐらいの収益の中で5億かかっちゃう。実際にビジネスとしては非常に低い利益率になります。

【A】

それであのまあ冬場、閉鎖になっていくとここで先程の、あの空けるように期間を空けるっていう事分かりましたけど、それは可能なんですか。

【信濃電力開発】

いやあこれからでしょうね。ただ発電所を見学できるっていう事だけでも、出来るとありがたいなと。

【A】

通年は発電できるんですか？

【信濃電力開発】

通年は発電できますよ。

【A】

出来ますか？凍るとかそういった事はないんですか？

【信濃電力開発】

ないです。取水のところだけ凍らなければ、あと水だけ流れてると、あの設備自体も凍る事はないです。

【A】

それであと雇用が期待できるという事でしたけども、どんな雇用が考えられますか。

【信濃電力開発】

基本的には発電所の維持管理に対して、やはりそのきちっと見回りをしてもらうという雇用は別途発生すると。

【A】

まあ一人か二人と。

【信濃電力開発】

はい、まあそうですね。

【A】

雇用と言っても。

【信濃電力開発】

そうです、そうです。

【A】

もうみんな機械等でこう、ごみやなんか取っていくと思いますし。

【信濃電力開発】

点検作業と、まあ夏場になると除草ですとか、そういった事はやっていただかないといけないかな。

【A】

まあ雇用と言ってもそんなところでしょうね。みんなすごいかけないようにしてやる事の方が絶対利益が出るころですから。雇用っていう题目的にはちょっとそんぐらいしかないと。

【信濃電力開発】

そうですね。まああとは役所の方にはあの設備として作りますので固定資産税っていうものが発生しますので、これは結構大枚なお金が市役所の方に納税されるという事ですね。

【A】

さっきあの供給さんの方で言ってるようだったんですけど、源泉の上で取って影響ないって事ですけども、それは源泉の上で取って上で放流しているから下に影響がないっていう事でいいんですかね。

【信濃電力開発】

基本この説明書の最後についている構造なので、これですね。伏流水っていうのは川底の下ですから、この水をこれが流れてないって事になれば、それは問題があるかと伏流水も浸透しないから。でも0.24という、かなり流すという水の放流ですね、ですからこの伏流水が減るって事はまずないだろうなという考え方でいいです。

【B】

当社が一番心配しているのが、その、やはり雨が降ったりして川の水量が増えると、源泉からあのふもとへ着く温泉の量が増えると、真冬の渇水季になると減ってくるという事があるもんですから、真冬の渇水季にその堰堤の口に沿って取水口があるわけですよ、それが全量取り込まれるって可能性はないですか。

【信濃電力開発】

はないですね、基本的に。そこにある0.24は必ず流すって形になってますから逆に言うと発電所は0.4から最大やりますけども、0.24になったら止めちゃうって形になります。もし全部0.24しか流れなかったら、0.24、一流放流が0.24以下になった場合には止めちゃうって形になりますので。ですから川が流れてないっていう事はなわけですよ。

【B】

ギリギリ0.24に近い流れになっていて、全量取り込むって事はないですか。

【信濃電力開発】

ないですね。

【B】

それは、どうして分かるんですか。0.24。

【信濃電力開発】

基本的にはあの機械の方ですね、0.4からこれ取ろうとすると0.04まで取れるんですけども、まあ回せるんですけども、ようは基本0.24以下になるっていうのがこの表にも分かる通り、本当に何日かしないってことになるのでこういったあの川の方ですね、0.24一流量は必ずその流すってのは最初の取水口で作っちゃいますから、その部分だけ必ず流す。で、それより増えると発電機回すって事になりますので。発電機は0.24以外の水しか流れてこないというのがまず一つですね。で、機械が、機械的に0.4が最大ですけどもそれを合わせると0.24プラス0.4ですから0.64は流れてれば0.4で最大取水枠ですからね。あとはそれが下がっていくと0.24以外の水が流れてこないと構造になりますので、そこは取水口で判断して全部閉めちゃうっていう。

【A】

この時は発電が出来ないっていう。

【信濃電力開発】

そうです、出来ないという事です。

【C】

はい。

【信濃電力開発】

はい。

【C】

あのお、Cと申します。あの、ちょっとまあ今の話からそれるんですが、ちょっとお名刺交換させていただいて、あの御社様がこう山梨県の北杜市谷戸、という住所に所在があるようなんですけど、あの私どももあそこら辺にちょっと土地勘があるんですけど言ってみれば森の中で、言ってみればそこら辺の水源なんかはやくとくには、あのなんかそんなようなご縁でこの地谷戸、なんかあの御社の機能があるっていう事なんですけど。

【信濃電力開発】

たまたまあ 19 年前にですね、ここの我々の前身の会社の名前決まりめにですけど、その時のオーナーがドイツで視察して、その小水口を見て、これを日本でやりたいと水車機器も日本よりもヨーロッパ製が非常に性能が高かったので、で始めたって事で始めたんですが、非常にまあ奇特な方なんですけども、まあだんだんその、時間が掛かって非常に大変な事業なもんですから、いわゆる資金繰りがつかなくてどんどん社長だけ変わったって事で、でここに今ちょっと年表とかあるんですけども、あの会社案内、会社案内（ああ大丈夫ですよ、ああ大丈夫ですか）一応私どものあとで皆さんに配られると思いますけども、こういうような歴史になってまして、いわゆる再生可能エネルギーがたまたま●●●なってきたてのはありますけども、水力発電所の事業を起こしたっていうのは今の事務所北杜市。大泉まち、大泉ちょう。で北杜市も、再生可能エネルギーの先進都市って事で最初太陽光いっぱいものすごい数だったんですよ。推進市だったんですけども、今反対市に代わりました。

【C】

そうですね。

【信濃電力開発】

あの景観壊れるって事で。廃棄の問題も太陽光パネルってあって廃棄処理が出来ないっていう。非常に逆転しまして、で水力も元々北杜市さん、まあ積極的にやってまして、それこそ北杜市 4 つ水力発電所持ってますけども、その下流域にも温泉があります、●●●です。六ヶ村堰と北杜市の中ですけど、ここの下にもいっぱい（これだ、これですね）4 つ、同じ流域に 4 つガンガンンって作ってるんですけども、その下にある高根山とかね、当然お湯減ったなんて事ない。

【A】

いいですか。水力発電とか小水力発電とかはいいと思うんですけど、たださっきのように温泉の出が悪くなったりする、温度が下がるっていう事が私はどうしても心配なものですから。こういうことは絶対良い事だと分かるんですけども、そこが一番問題なんですよ。

【C】

よろしいですか。

【信濃電力開発】

はい。

【D】

温泉旅館組合の関係でホテルやっております、Dと申します。あの、この安曇野市事態がね、自然をうって、横山さんが言ったようにその自然エネルギーを使った発電っていうのはこの市においても良い事だと、思いますが、私たちが懸念してるのはそのやっぱり温泉によってこの安曇野市の観光っていうものが成り立ってるっていう、そこであの生活してる人とか、そのまあ言えばそのさっき雇用が生まれるとか色々おっしゃってましたけども、それよりも以上のものがこの安曇野市温泉の恩恵を受けてる中で、要はその温泉に影響が出ては困るんですけど、で今までにもその、そういう温泉地でやってるっておっしゃってましたけども、やっぱりその地質とかそういう事が多分場所によっても全然違うでしょうし、その源泉の置かれてる位置等もその場所場所で全く同じわけではないと思うので、そこで絶対この温泉については影響がないよっていうような提示をね、そちらさんからこうだからこういう地質でどうだからやっぱり詳しい説明がないと今までやってきて、その影響がなかったよっていうのとまたこの場所でやるっていうのはちょっと違うと思うんですね。私たちの納得いくいけるようなものをちょっと提示していただきたいと私は思いますのでね。

【信濃電力開発】

それは先程のご質問と一緒にだつていう事でよろしいですよ。

【A】

あといいですか。あの先程 0.24 という数字が出てくるんですけど、この表自体どこから持って来てるんですか。

【信濃電力開発】

そこにちょっと書かせてください、本来あの門外不出なんですけども中部電力さんのご協力をいただいて、そ

のものデータが全部です。

【A】

中電。もう少し下の方で計ってるってことですか。

【信濃電力開発】

あの基本的にはすぐ下、ですよ。

【A】

そんな中電さんの施設ってずっと下のほうじゃないんですか。

【信濃電力開発】

有明荘の前、有明荘の前、有明荘の前に取り入れ口があります。あれですね。

【A】

いやちょっとこのね、表がどっから出てくるのかなと思ったものですから。基本がここから話が動いてるような感じですから。あ、中電さんのところですよ。あ、はい分かりましたありがとうございます。

【D】

と、その、もしもですよ、もしも影響が出た時に、どういう風なリスクを考えられてらっしゃるんですか。

【信濃電力開発】

もしの場合は、あまりあのお答えできない部分もありますよね、もしもに対してはない、いい加減なことを言っちゃいけないので、それについては。

【D】

例えばそれが回復するまで、事業を途中で中断するとか、そういう事まではリスク管理はしてないですか。

【信濃電力開発】

ですから過程の話なんでお答えしづらいんですけど、これはちょっと説明者としてのご意見は別の話します。私個人の話します。一般的には影響下があるとご署名をしていただければ、それに対して適切な対処すると、いう事は当然だと思います。

戻ります。

【A】

まず先程の温泉供給さんの方で水位と、あるっていうかそれを提出してもらってその答えが返ってきてっていう事で、また、そういう事で良いですか。それによってじゃあ次のところに移るかっていうような流れを考えてゆけば良いですかね、我々は。なにしろお客さんがいる事なので私らも。間に挟まれちゃうもんですから。なにしろ50年こどもやらしてもらってるもんですから、お客さんそれだけあるもんですから、もしもこれが温泉が本当に止まるとかなくなっちゃう事になると死活問題になるもんです。

【信濃電力開発】

そりゃもう気持ちも重々分かります。そりゃもう絶対、あると思います。ただ我々もちょっと科学的根拠がないなかでのご回答って事は、●●●含めてですね。

逆にあの逆に質問なんですけども、今湯量、湯量とかはデータってのは当然つきつけられてあるって事ですか。

【B】

そうです、はい。

【信濃電力開発】

それは、そういった場合にご質問を受けた時に開示するのはしていただけるんですか。

【B】

そうですね、はい。それは出来ます。

【信濃電力開発】

ありがとうございます。

【A】

そりゃ絶対基本だからね、前提で言ってるんだから数字出せって言われればそれしかないだから。それは我が社が分からないんだから供給さんがやってもらう事だから。

あと温度についてはなんでしょう。

【B】

温度、そうですね。雨が降ると水量が増え温度が低下すると。で、川の水が減ると流出量が減って温度は逆に上がっていくと。そう考えてます、はい。

【E】

工事中に水が濁るという事はないですか。温泉が濁るとか。

【信濃電力開発】

まあ温泉への影響はないと思いますけど。

【E】

伏流水が関係ないと言えば濁る絶対濁らないという事だね、工事中は。

【信濃電力開発】

基本的にはないと思いますけど、ただ川はいじりますから、多少は。

【E】

川をいじったという事は川の水は温泉には関係ないという事なら川が濁って伏流水に濁った水がいけば温泉は当然濁りますよね。温泉は伏流水でしょ。

【A】

工事の時期、がほじくり返せなきゃあかんという事でしょ。

【B】

そうですね、濁りに関してはまあ結構お客さんも敏感に事務所には連絡してくるので。

【信濃電力開発】

基本工事計画をきちっとして、やっていきたいとは思っております。

【B】

そうですね。

【信濃電力開発】

川が濁らないという事は、絶対とは言えませんので、そこは工事期間中。

【E】

川は工事すれば濁るのは当たり前やから、伏流水が濁った時点でおかしいという事ですよ。

【B】

濁って影響が出ると。

【E】

影響が出たという事になりますよね。

【信濃電力開発】

そこはちょっと、我々も判断しかねるので、工事関係者と良く打ち合わせをして対応したいと思います。

【D】

まあ私たちが一番心配しているのは、自給しているものが不利益にならないかと。極論を言えばね。そこが担保できるのかっていう事がもう心配な訳ですよ。だからさっきも言ったように濁ったりしたらもうお客さん取れないのでその間じゃあって、困るわけなんで、そこが全部担保できるのであれば、特に私たち自然エネルギー活用する事については、もう全然どっちかという賛成な方なんで、その安曇野市においてのその考え方自然を大切にしているという考え方においては当然だと思いますからね。ただまあそこんどこですよ。温泉を生活の糧にしている私たちが観光事業者としてはですね、そのところがちゃんと担保できるのかどうかという事をお約束していただけるならという事ですね。

【A】

これ供給さんと取ってるところはこの下なんですか。

【B】

えー、源泉ですか。

【信濃電力開発】

あの、それはだから有明荘の、よりちょっとしたで取水してるとしたら彼らの源泉はもっと上です。

【A】

上ですか。

【信濃電力開発】

上。

【A】

今のこの放流、発電所よりは上なんですか。

【B】

発電所より上です。

【A】

上って事はショートカットされてるわけです。

【B】

そうですね、源泉を、通り越して下の方に発電していく。

【A】

そこに来る水は0.24とか、それが出来ちゃうって事だよな。

【信濃電力開発】

そうですね。それともう一つあるわけですよな。

【信濃電力開発】

二つある。二つ目は全然下だから。

【A】

ショートカットされずに上に戻ってればまだ。

【信濃電力開発】

この橋の下とこの橋の上ですね。

【A】

その辺のところでショートカットされなければ、取ってる分が上で使った水が戻ってくる事だから、減るようなことはないと思うんですけども。今聞いてるとやっぱショートカットされちゃうと流れてる水が減るという事でその利害関係が出るという事で問題に今なってると思うんですけども。

【信濃電力開発】

だけど、極端に言えば流水を取るわけなんで伏流水を取るわけではないのでそれはちょっと違うと思います。流水が、流水が仮に温泉に入ってるとしたら、これは河川法上の問題もいっぱい出てくるんで、あの今使われているのが、現に下へ持ってって配ること自体も問題が出ちゃうんで、あくまで流水とは関係なく伏流水だという事で前提でお話しないと、おかしなものに。

【A】

それが先程いくと、やっぱその水量によって温泉の出方も変わるっていう話も。

【信濃電力開発】

だから水量の中で伏流水が影響するっていうなら分かるけど、今の話はこのデータは流水、川の中に流れてる流水です。

【A】

全然問題ないならこの上で発電所作って動力はないのかなあと思ったんですけども。そうすりゃここに戻ってくれば下の方で同じ流量でやれば温泉の量は同じに出るっていう可能性があるじゃないですか。今どうもショートカットしちゃうから減るって話になってるようなんで、これがこの温泉供給から取ってる源泉より上で戻ってくるって事は出来ないのかなと思います。

【信濃電力開発】

逆に途中で放流すると、温度が下がる原因になる可能性もある。ボーンと落ちるわけだからどこに湯本があるかを明確になってない部分があるんで。だから湯本が逆に言うと利権書を出してもらった時に私どもの方としては何度も市にもお話に出たんだけど、源泉位置、法律上の根拠、それを明確にしたうえで質問を出してもらわないと、答えようがないんですよ。

【A】

まあそれはどっちもどっちみたいなの。

【信濃電力開発】

いや、どっちもどっちじゃなくて源泉を買われてる方がいるんだから、源泉から取ってる法律的な根拠、これを明確にしたうえで質問を出してもらわないと、こちらの社長さんだって弁護士だから、そのぐらいの事は百も分かってる話だよ。だからその事がはっきりしたうえで、質問をされてお答えしてっていうのが正常の議論かと。私は何度となく聞いてくるのが源泉位置、この辺としか聞いてない。んで河川法上には届け出はあるのかと聞いたら県は黙っちゃった。だからそういうあやふやな部分で議論が本当にできるんですかっていうのが私は前から気になってた。

【A】

ただ。

【信濃電力開発】

皆さん利用者であるなら、お金払ってる以上は、それは説明はちゃんと出来るはずなんで、してもらわなきゃいけない。

【B】

今回の件はあの、ね、小水電力発電に掛かる件での質問事項ですので。

【信濃電力開発】

その件で、質問される以上は法律的な根拠、ここにあってここに、あの集湯方法しててっていうのが明確になったうえで、じゃあ対策を考えましょうっていうなら分かる。

【B】

影響のない事の証明をお願いしたいという事ですので、その件について、だけは質問はさせていただきます。

【信濃電力開発】

だからそれでいいんですよ。ただ、だけどその中でやっぱ根拠になる部分はちゃんと添えてもらわないといけないといけない。法律で、だから持ち主が本来は温泉供給ではなくて、安曇野市でもなくて国なんだから国にちゃんとそういう要望を出していただいて、国からやっぱこういう根拠があって法律上でこういうので網羅されてるから、ちゃんとお答えくださいと、いうのが僕筋だと思うな。うん。

【信濃電力開発】

一応信濃電力開発株式会社宛でお願いできればと。

【B】

はい、分かりました。

【信濃電力開発】

やっぱり議論してくのに、どっちが先なのかどうのこうのいうよりも、僕は何年も前からその事を聞きながら河川工事の事も県にお願いしたり色々としててもやっぱりその辺が噛み合わない。だから法律的な根拠、さっき言われた法師温泉なんかは法律的な根拠があるんですよ。ここにちゃんと源泉が湧いてる、目の前で湧いてると

ころを見してる。だから私は権利があると。ただ、あのそのデータっていうのも源泉で僕らは保健所に届け出して源泉で分析して源泉で湯量を測ってる。その辺の下の貯湯槽では測ってない。やっぱその辺をちゃんと明確にしたうえで、根拠持ったうえで説明しなきゃいけない。うん、質問するならあれば。やっぱりこういう皆さんの気持ちも分かるんで、はっきり言うけどその辺はやっぱりちゃんとしなきゃいけない。お金払ってるんで、国だってお金もらってるんだもん、ちゃんとその説明を受けたうえでこちらが応える義務がある。私はそう思うけどね。まあそれは何度も安曇野市さんにお話してる事なんで、うん。根拠がない事には彼らも答えようがない。まあ私はそう思うだけの話なんでね。まあ今のこちらの〇〇社長にしても〇〇社長にしてもその辺のことは十分わかったうえでお引き受けになってるわけだから、その辺を含めてちゃんとした正当な議論をするべきだと、するんであれば。下手に損してやるべきことになるんだっとならない方がいいと思います。まあ私はそう思います。

【A】

まあ今日は説明会だから、今の説明を聞いて、こちらの質問事項を出して、そいでこちらもう一回出さなきゃいけないことは出して、もう一回その辺のところを詰めてもらうって事で。今日のところはそれしかないけども。

【B】

それとあの、返事いただいたご説明。

【A】

なんにしてもそういう、ショートカットして上に流してくれればいいのかっていうのを、一案だと思ったから話しただけの事だから。その辺でいいんじゃないかや。なんかありますか。なければ。

【信濃電力開発】

信濃電力開発さんもしあれだったらあの、あの取水地点と合流地点だけ確認してもらったらどうですか。だいたい彼らも源泉の位置分かってるんだからここにありますって説明を受けとけば。そうすれば今日の話のおおかたのずれみたいなものはない、ないかもしれないです。

【信濃電力開発】

それはもう全然構わないです。

【信濃電力開発】

聞いといて合流地点も確認してもらって、そいでだいたいこの辺とこの辺にあるんだっていうのをちょうど皆さんだってみえてんだから、私は分かってるけど、それ説明してもらって、まああのお帰りになっていただければだいたい、来た価値は十分あると思うけど。

【B】

じゃあちょっと時間に余裕があるものだけ見させていただいて。

【信濃電力開発】

大丈夫ですよ。じゃあ説明会は以上でよろしいですか。

【B】

はい。

【信濃電力開発】

はい、じゃあどうもありがとうございました。

